

全職員が利用できる図書室をめざして －医局図書室から病院図書室へ－

上原美幸（耳原総合病院）

昭和52年、病図協の研修会で「耳原総合病院図書室の現状と課題」というテーマで報告してから早や3年が経過した。図書室といっても名ばかりで、狭いスペースの中で本が置かれているという状態で、閲覧コーナーも同じ場所になく、カンファレンスルームと兼用していた。これまで、図書業務は医局秘書業務の1部となっており、現在もその形で引き継がれている。こうしたなかでの問題点、課題を明らかにし、病図協の皆様にお知らせした。その後、病院内外のさまざまな状況の中で新しく別館が建設される運びとなり、地下に図書室ができることになった。スペース的には非常に狭いが、閲覧もしやすくなり、本もきちんと配架できるようになった。病院図書室として出発できることは本当にうれしく、病図協の皆様とともに喜びたく、こゝに報告させていたゞく。今後の発展にとって大きな起点となり、質量ともに充実させていくために、こゝに図書室業務の3年間のまとめを行いたいと思う。

1 図書委員会の発足

これまでの本の購入方法は、要求が出れば購入していくということで、計画的に病院図書室としてどのように充実させていくのかについて検討される場がなかった。図書全般のことを検討する部門の必要性をひしひしと感じ、昭和52年9月、内科・外科・小児科の先生方から成る

図書委員会が発足した。本の要求がほとんど医師から出ることから、医局中心の図書委員会となったが、まずこの中で検討し確立すれば、さらに輪を拡げていくということで出発した。図書室に関するあらゆる問題を討議、決定していく場としたい。また、この先10年くらいの長期展望をもち、各科各領域の要求をくみ上げながら、1年間の本の選定をした。53年度からは各科の人数、実績等を参考にして予算わりをし、それぞれの図書委員の先生方を中心に計画購入をすすめてもらった。そして、図書室に関する問題、関係書類などは委員会の時に検討してきた。このようにして、本の計画購入が実現し、雑誌についても、総合病院として最低そろえるべき雑誌について検討し、充実させた。（昭和55年1月現在、和雑誌80、洋雑誌39種）そして図書閲覧規則も、これまでの方法を文章化し、他病院のものを参考にしながら作成した。

2 図書室の環境づくり

これまで紛失図書が非常に多く、業務がマヒするため委員会で検討し、「本を持ち出す時には必ず手続きをする」という習慣をつけるために、時間外はカギをかけるという手段をとった。製本機を購入して雑誌の仮製本することと、時間外の施錠によって紛失図書は圧倒的に少なくなった。また、木製の書架が本の重みでゆがみ、大型の本が入らない状態でもあったのでスチー

ル製の書架にすべて入れ替え、天井まで有効に配架できるようになった。またカードボックスや分類カードボックスなどを購入し、整理されたので、利用者も見やすく、利用しやすくなった。

3 各種リスト・台帳づくり

雑誌所蔵リストは、1956年からの雑誌について総点検し、和・洋別にアルファベット順にリスト・アップした。これまでバラバラに置かれていたが、これを年代順に配架した。その後何度も場所の移動をしたので本も痛んでいる。現在、1969年以前のもは、図書室外に保管されている。その他事務的な台帳づくりもすゝみ、整備してきた。

4 文献の相互協力

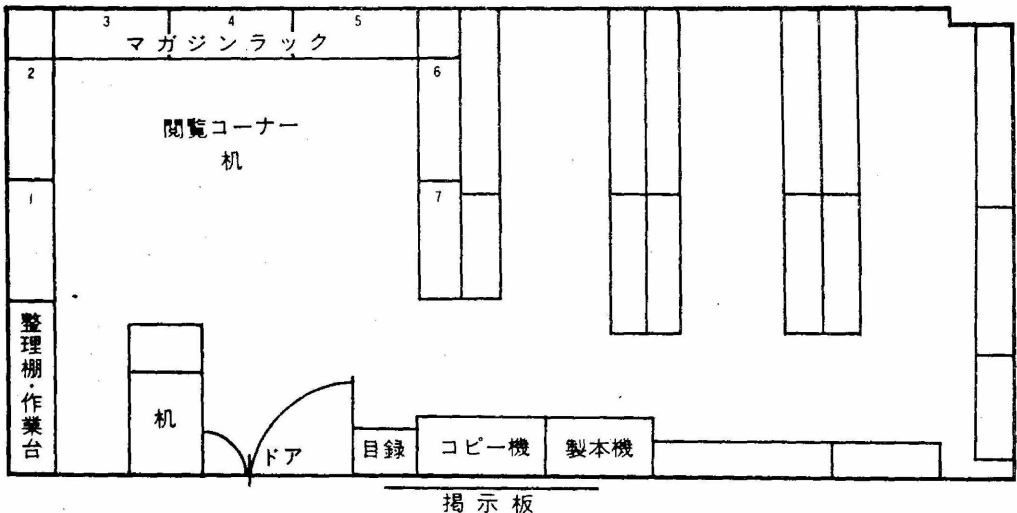
近畿病院図書室協議会に入会してから教えられることが多く、当病院にとってこれからの課題にすべきことが数多くある。文献相互貸借に

おいても協力していたとき、月に2回、阪大図書館に行くのと合せて、巾広い文献を入手できるようになった。

5 今後の課題

本年（1980年）6月には、別館地下に図書室ができ上がり、病院図書室として第一歩をふみ出す。病院図書室として本の中央化をはかり、全職員が利用できる図書室にするため、他職種も含めた図書委員会の充実についてさらに検討し、要求のまとめ方のさらなる工夫が必要になっている。図書室が学習できる場であり、第一線病院にふさわしく、いち早く情報をキャッチできる場とするために、できる限りの環境の整備をすゝめ、図書係としてあらゆるサービスに努めなければならない。さらに、「図書室便り」の内容を充実し、全職員へ、管理部へ、図書室のあゆみ、情報、そして統計などを盛り込んで伝えていきたいと思っている。

図書室レイアウト（別館地下）



※ 6月に書架の部分がムービーラックに変更する。